

議会だより



りゅうおう

No.174

2016年2月1日
滋賀県竜王町議会



1月11日 左義長 (山面・美松台合同)

元旦マラソン



決算を認定	2
委員会活動	5
町政ここを問う	7
いきいき人生	16

12月
定例会

新春を駆ける (ドラゴンハット)

認定!



滋賀電王工業団地造成に伴う

電王インター周辺地区整備に

6億198万9千円

大型
事業

平成27年第4回定例会は、12月3日から22日までの20日間の会期で開かれました。今回の定例会では、条例関係4件、平成27年度一般・特別会計補正予算7件、平成26年度一般・特別会計決算認定7件、請願2件、その他5件の合計25議案を審議しました。

慎重審議の結果、請願2件を除く23議案は全て原案通り可決・認定・承認しました。

決算に関する主な質問や意見

問 山之上地区定住化促進検討業務委託料の54万円はどのように使われたのか。

答 国に提出した都市再生整備計画に山之上地区を計画エリアに含める変更を行うための資料作成の経費である。

問 いじめ等対策事業として約435万円支出しているが、いじめがあったのか。

答 当事業はいじめが起らないようにするための事業であり、当年度についてはいじめはなかった。

問 庁舎関連の火災保険料が約13万円支出されているが、それで万全なのか、十分な備えができていないのか。

答 庁舎別館火災（平成26年1月発生）では、再調達価格には達しなかったため、十分ではなかったと考えている。来年度に再検討する。

問 国保（施設勘定・医科）特別会計において財政調整基金の取

り崩しが毎年続くことによる、基金の減少への対策はどう考えているのか。

答 指定管理に伴う取り崩しであるが、今後の2年間を最終と考え、これ以上の基金の減少にならないよう努力する。

問 介護保険特別会計において、要支援1・2の認定者が109名で、介護サービス受給者は69名であるが、残りの40名はサービスを利用していないのか。

答 住宅改修や福祉用具の購入、特定高齢者の教室への参加などを勧めることにより自立した生活ができるよう対応している。

主な意見

施設管理の観点から火災保険加入の目安としては、対象物件の再調達価格程度が適当と考えるので、以後善処されたい。

地籍調査については、それぞれの地域に様々な難問があると思うが、事業推進になお一層の努力をされたい。

平成
26年度

決算を

一般会計・特別会計の決算

会計名	歳入	歳出
一般会計	64億1,259万円	59億6,385万円
特別会計		
国民健康保険事業(事業勘定)	11億3,255万円	10億9,965万円
国民健康保険事業(施設勘定・医科)	1,580万円	1,509万円
国民健康保険事業(施設勘定・歯科)	5,282万円	4,937万円
学校給食事業	6,165万円	6,089万円
下水道事業	6億2,821万円	6億2,031万円
介護保険	7億8,779万円	7億7,670万円
後期高齢者医療	8,717万円	8,691万円

平成26年度は
こんなことにも町のお金が使われました



竜王西小学校施設整備事業
743万円
(防球用ネットフェンス)



自ら考え自ら行うまちづくり事業
537万円
(美松台・かまどベンチなど)



道路橋梁維持補修費
1,264万円
(薬師橋など)



小型動力ポンプ整備事業
177万円



高齢者福祉施設等整備事業
3.857万円
(小規模多機能 山かがみ)

補正
予算

ふるさと納税推進に 1,000万円増額

平成27年度竜王町一般会計補正予算(第5号)は、既決予算に歳入歳出それぞれ3,517万2千円を追加し、総額を64億2,731万7千円にするものです。

歳出補正予算の主なもの

・ふるさと納税推進報償費	1,000万円
・法人化支援事業補助金	150万円
・岡屋仁殿下水道整備工事	1,000万円
・地域防災拠点施設整備工事	700万円
・保育所運営費	669万円
・未来につなぐふるさと交電積立金	2,000万円
・コミュニティバス運行委託補助金	157万円
・人件費補正(給与制度の総合的見直し等)	▲3,664万円



竜王町の謝礼品カタログ

問 ふるさと納税推進報償費とその関連経費を含めて1,065万円の補正が計上されているが、未来につなぐふるさと交電寄付金2,000万円の収入は見込めるのか。

答 11月より制度拡充による受付を開始し、11月末現在で1,616万5千円(557件)の申し込みがあった。年度内に2,500万円は確実に見込んでいる。

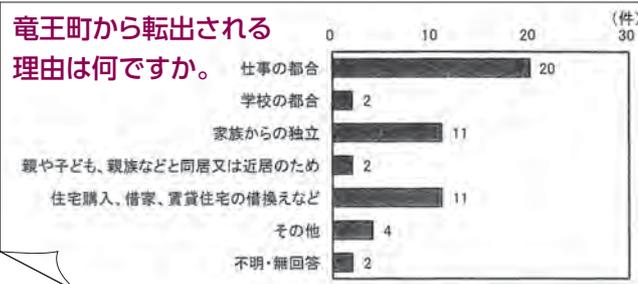
追記:平成27年12月末現在で約9,000万円の寄附の申し込みがありました。

問 集落営農に伴う法人化支援事業補助金150万円の内容は？

答 当初、今年度の法人化を5団体と見込んでいたが、8団体(東出、西山、橋本、林、薬師、川守、綾戸、西川)に増える見込みである。

人口減少対策特別委員会 を設置しました

地方の人口減少と経済縮小の実態が地方の弱体化に拍車をかけている現在、目標を14,000人としている竜王町においても、このことについての危機感を共有し、課題を克服することが強く迫られています。竜王町議会としても、まち・ひと・しごと創生法で策定することとされた人口ビジョンの策定状況の把握・検証を含め、人口の流出防止と流入促進の施策等、人口減少対策について集中的に調査・研究するため特別委員会を設置しました。



竜王町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための転入出者調査結果報告書より抜粋

委員長	森島 芳男
副委員長	若井 猛志
委員	森山 敏夫
委員	内山 英作
委員	山田 義明
委員	小森 重剛

常任委員会の活動

総務産業建設常任委員会 12/9

調査

農業委員会法の改正

農業委員会が、その主たる使命である、農地利用の最適化（担い手への集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進）をより良く果たせるようにするための改正です。

- ・農業委員会の業務の重点は、農地利用の最適化の推進であることを明確化
- ・地域の農業をリードする担い手が透明なプロセスを経て確実に就任するようになるため、市町村議会の同意を要件とする市町村長の任命制に変更
- ・農業委員とは別に、各地域において農地利用の最適化を推進する農地利用最適化推進委員を新設



問 委員の定数はどのようになるのか。

答 町の農地の規模からすると農業委員と農地利用最適化推進委員の上限がそれぞれ14名になり、定数は今後決定する。

審査

「治安維持法犠牲者国家賠償法(仮称)」の制定を求める請願書

主な意見 治安維持法が制定され、90年が経過していることから、当時の状況が十分に分からず、犠牲者が特定できるのか。判断するのは難しい。

全員反対で 不採択

国に対し「所得税法第56条の廃止を求める意見書」の提出を求める請願書

主な意見 所得税法第56条の制定から60年以上が経過し、青色申告と白色申告との間に実質的な差異がなくなっており、なぜ白色申告から青色申告にしないのか疑問視する。

全員反対で 不採択

教育民生常任委員会 12/10

審査

国民健康保険事業特別会計(施設勘定)補正予算(第2号)

医科診療所における平成28・29年度の指定管理業務1,400万円および歯科診療所の平成28～30年度までの施設管理業務156万円の債務負担行為の設定です。

全員賛成で 採択

問 医科診療所は受診者数の減少や近隣の医療施設の状況など厳しい状況の中で、指定管理者に経営努力をお願いすることも必要ではないか。

答 家庭医として、さらに、訪問診療から看取りまで幅広く取り組んでいただいている。

審査

「指定管理者の指定につき議決を求めることについて」

医科診療所の指定管理者については、設置目的を達成する能力を有し、施設の有効な活用及び適正な運営等が図れるものとして、引き続き医療法人社団弓削メディカルクリニックを指定するものです。

全員賛成で 採択

主な意見 指定管理者として指定する間に、町においては町の医療体制のあり方について指定管理者とコミュニケーションをとり、しっかりとした方針を立て2年後に備えていただきたい。

調査

保育園の入所状況

平成27年度は待機児童者数が15人となりました。次年度については、現時点での入所申込数は244人と今年度を上回る見込みです。対策としては、コスモス保育園の定員を20名増員し、幼稚園における3歳児預かり保育の利用を案内します。

問 平成27年度の待機児童15人についてはどのようになっているのか。

答 無認可の保育所へ5人、育児休業を延長された方が3人、就労を延期し自宅で保育された方が7人である。

調査

学童保育所の入所状況

保護者の就労状況による入所者の増加と、「まつぼっくり児童クラブ」は新施設が開所されたことによる増加が見られ、現在、当施設は定員超で改修を考えなければならない状況です。



問 学童保育所の定員と在籍者数の上限はどれだけか。

答 定員は、床面積の基準（一人当たりおおむね1.65㎡以上）によると、「西っ子児童クラブ」は57名、「まつぼっくり児童クラブ」は定員56名であるが、「まつぼっくり児童クラブ」は現在定員オーバーとなっている。現在は、町条例で平成32年3月末まで猶予期間があり、その範囲内で運用している。

特別委員会の活動

地域活性化特別委員会 12/16

調査

滋賀竜王工業団地

工事は順調に進んでおり、企業誘致活動については、本町にふさわしい企業の選定や東京・名古屋でのセミナー開催などを進めています。



問 町としての誘致はどのように行っているのか。また、残りの6区画について進出希望企業はないのか。

答 県および公社と町が一体となって誘致活動を進めている。来年度中には、2社から3社契約が出来るように努力していく。現状としては現地を見に来られたのが1件あった。

調査

(株)雪国まいたけ

パッケージセンターを除いた残りの用地について有効活用を検討されています。

問 残りの用地の新たな開発に関しては、どのようなことが必要になるのか。

答 未利用地については分割し、進出企業を募集される。県農政課との農工法にかかる変更協議が始まると(株)雪国まいたけは、県の県民活動生活課に開発の事前協議の申請を提出される。最大の課題は、文化財調査や進出企業の決定等である。

町政 ここを問う!

質問席

12月定例会で11人が
24問の一般質問を行いました。

ページ	質問者	質問事項
8	山田 義明	1. 竜王町農業に六次産業化の本格的な支援を
	松浦 博	1. 地方版総合戦略およびT P P 対策に「土産土法」から「地産他商」への転換について
9	貴多 正幸	1. 職員の人材育成および人事評価について 2. 人口増に向けた取り組みについて
10	森山 敏夫	1. 安心の移動支援サービスについて 2. 地域防災情報システムの整備について 3. 上下水道の整備について ※ 4. 住宅整備事業施策について ※ 5. 子育て支援事業施策について
11	若井 猛志	1. 滋賀県水道用水供給条例が改正された場合の竜王町における影響について 2. 子どもの医療費無料化の拡充を求めます 3. TPP交渉の大筋合意を受けての竜王農業への影響と農業振興について 4. マイナンバー制度について ※ 5. 子ども・子育て支援新制度について
12	小西 久次	1. 竜王町総合計画と竜王町まち・ひと・しごと創生総合戦略について 2. 今ある資源を生かした産業振興によるまちの活性化について
13	古株 克彦	1. 橋梁の長寿命化について
	岡山 富男	1. 竜王町のめざす特別支援教育のあり方について
14	内山 英作	1. 竜王町の健康施策について 2. 日野川堤防の補強と排水対策について 3. 福祉組織と自治会組織の連携について 4. 要支援から自立へ、介護卒業をめざして
15	菱田 三男	1. 第五次竜王町総合計画後期基本計画について
	森島 芳男	1. 中学校の部活動について

※の質問事項については、掲載を割愛しています。

問 竜王町農業に 六次産業化の本格的な支援を

答 稲作等の完全な協業を図りながら、
各々の経営体に見合った商品を見いだす



山田 義明 議員



観光にも取り組むイチゴ園(山之上地先)

農林漁業の六次産業化って？

農林漁業生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した
新たな産業の創出を促進することです。

答 まずは、集落営農の法人化等で組織基盤を確立し、そのうえで、転作中心から水稲等の完全な協業を図りながら、個々の経営体各々に見合った付加価値の高い六次産業

問 竜王町の水田農業について、担い手や安定的な農業経営を確保するために、水田を活用した六次産業化に町は取り組めないのか。

化の商品を見いだしていくことこそが、各経営体の特色ある取り組みのもと市場に認知される商品が見いだされていくことに繋がり、竜王ブランドに発展できるものと考えられる。町は、関係機関や農業団体と連携し、これまでの取り組みを発展させながら町の実態と時期に的を射た六次産業化も含めた農業施策の推進に努める。



松浦 博 議員

問 「土産土法」から 「地産他商」への転換は

答 “土産土法” は
町長のまちづくりのキーワード



日本三大牛 近江牛の肥育(山之上地先)

答 町内大型商業施設に訪れる人が増える中で、近江牛を中心に町の産物

問 空店舗など既存建物を活用して近江牛・近江米・地元日本酒などの特産品を集め、ラーメン村のような「近江牛村」を設置し、「地産他商」により地域経済の発展に貢献できる地方版総合戦略やTPP対策の具体的な施策について問う。

や施設建物を組み合わせ「近江牛村」の発想は、資源を活かし組み合わせたもので、農業・商業・観光振興の貴重なアイデアとして参考になりたい。多くの特産品には国内外に通じるセールスポイントがあり、これを活用し「土産土法」や「地産他商」の考え方で地域経済の維持・向上につなげていけるよう策定中の地方版総合戦略にも位置づける。



貴多 正幸 議員

問 職員の人材育成および 人事評価は

答 職員の士気向上につなげていく



人事考課研修を受ける町職員(平成27年11月)

問 平成28年4月に施行される地方公務員法及び地方独立行政法人法の一部を改正する法律について、どのように対応されるのか。

答 仕事にやりがいを感じて、自分が成長する喜び、人に認められる喜び

を実感することで、住民や組織からの期待に応え得る職務行動と成果を残せる職員の育成を目指すとともに、組織全体としての公務能力を向上させること、住民サービスの向上に繋がる制度設計となるよう構築していく。

問 人口増に向けた空き家対策は

答 空き家を定住人口の増加に向けた有効な資源として活用できるよう進めていく

問 第五次竜王町総合計画も平成28年度から後期計画期間に入るが、人口14,000人に向けた具体的な取り組みがあまり見えてこない。

答 空き家対策についてどのように考えているのか。

答 第五次竜王町総合計画における人口目標14,000人に到達するための取り組みのひとつとして、空き家の有効活用を位置付けているが、現時点で利活用できる空き家の数は限られている状況である。今後においては、空き家自体を増やさない取り組みはもとより、所有者等の抱える課題を解決し、まずは利活用できる空き家の戸数を



改修作業中の空き家(林地先)



地域おこし協力隊による
空き家プロジェクト



森山 敏夫 議員

問 地域防災情報システムの整備は喫緊の課題

答 最重要課題の一つとして取り組んでいる

問 本町では主として町有線放送機能を活用し情報伝達を行ってきたが、全住民に確実かつ迅速に情報提供できる環境は整っていない。平成26年度に「災害情報システム最適化調査研究」を実施し、最適な伝達手段を検討中であり、費用対効果を含め来年度中に結論づける。

問 災害時などの緊急情報の伝達手段として利用している屋外トランペット放送には限界を感じる。将来的に全戸への緊急無線の整備など、計画的に実施することが必要と考えるが、町の見解を伺う。



屋外トランペット

問 安心の移動支援サービスを

答 公共交通の整備に向け鋭意努力する

問 本町では、移動手段として車は欠かせないが、今後車の運転が困難な高齢者が増加すると、いわゆる「地域内引きこもり」が増える事は間違いない。この対策として、無料または少額負担での町内巡回バス運行など具体的な検討が急務ではないか。移動支援サービスに対する町の考え

方と具体的な取り組みを伺う。



平成24年度に実証実験で運行されたデマンドタクシー

答 現在、移動手段の確保として、既存の路線バスの維持に努めている。今後はさらなる高齢化の進展などにより、移動手段のニーズが多岐にわたるため、高齢者の意向に可能な限り沿った移動手段の確保についても、一層研究する必要がある。本町にある交通基盤を最大限に活かしつつ、経費等の財政的側面を勘案し、必要とされるニーズとのバランスを図りながら、公共交通の整備に向け努力する。

問 子育て支援事業の推進を

答 利用者ニーズに基づき慎重に進める

問 放課後児童健全育成事業の設備および運営に関する基準によると、放課後児童クラブ（学童保育）の1クラブの人数は概ね40人以下で児童一人あたり1・65㎡以上の面積を確保する事が望ましいとされている。現在、町が認可している二つのクラブは、共に施設の課

題を抱えており、早急な対応が必要だが、町の見解を伺う。

答 本町では、子ども子育て支援法に基づき平成27年3月に竜王町子ども・子育て支援事業計画を策定し、その中で放課後児童クラブの目標事業量を設定した上で、平成29年度を目途に施設整備の必要性の検討を行うことにしている。両クラブとも、施設の在り方については、喫緊の課題と認識しているが、今後の利用者ニーズの予測等に基づき適切に見極め慎重に対応していく。

町内の学童保育は…

		現状 (H27.11)	基準
利用児童数	まつぼっくり	62人	おおむね40人
	西っ子	41人	
児童1人当たり面積	まつぼっくり	1.52㎡	1.65㎡以上
	西っ子	2.30㎡	

問 県水道料金の負担は

答 年間380万円の負担増となる



若井 猛志 議員

問 使用料金の見直しについては、平成25年から続く動力費の高騰を経営努力の範囲内で対応することが困難な状況となつ

問 県水道用水の料金が改定されると聞いているが、県の改定案で、町としての程度の負担増になるのか。今後、工業団地等での程度需要増が見込まれるのか伺う。

答 滋賀竜王工業団地については、1日の使用水量を最大1300m³と想定している。

答 耐震対策等施設整備に係る見直しから改定による値上げが必要となった。本町の負担については、平成26年度の受水実績に基づき比較すると、年間約380万円の負担増となることが予想される。

問 豊郷町の高校卒業までをはじめ、他の4町では中学校卒業まで医療費無料を実施しているが、実施予定であると聞いている。

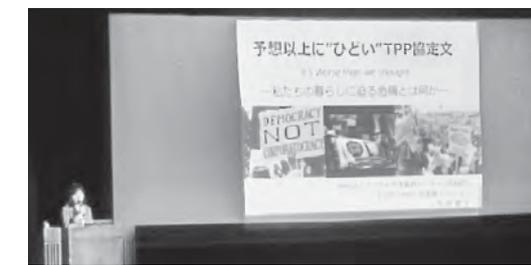
問 子どもの医療費無料化の拡充を
答 どのような制度設計にするか検討

答 現在の制度上での受診医療費であることとを前提に推計すると、年間約2,700万円の増額となる見込みである。福祉関連の経費が増加している昨今財源の捻出が課題であり、他の福祉施策とのバランスを考慮しつつどのような制度設計とするか検討をした

問 TPPの町農業への影響は

答 高収益の取り組みが必要

問 批准された場合竜王町農業への影響はどれくらいか損失になるのか。



TPP 県民会議

答 また多くの集落で生産法人を設立されているが、売り上げが前年を下回る状態が起きていて、町として対策を考えているのか伺う。

答 県の試算によると、県内への影響額の大きい6品目（米、肉用牛、野菜など）について県内で40億円の減少と推定されている。

答 これを基に本町で生産されている農畜産物の収量や飼養頭数で按分すると約2億3,000万円の影響を受ける。法人化された協業の状況は、大半が転作のみとなつているところであり、水稲・麦・大豆からさらに園芸作物など高収益な取り組みに発展していただくことが必要と考えている。

問 子ども・子育て支援新制度での影響は

答 保育料の増額家庭はない

問 新制度が始まったが、保育料の算定基準の変更に増額になった家庭はないか、また来年度の待機児童はないのか伺う。

答 増額になった家庭はない。待機児童については、ゼロを目指し、可能な限り希望に沿えるよう取り組む。



小西 久次 議員

問 総合計画と総合戦略策定はいつまでに

答 人口減少に歯止めをかけるため今年度内に



総合基本計画審議会

問 後期総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の進捗状況と今後の計画は。目標人口14,000人の考え方と定住に向けた受け皿づくり、住宅整備等について伺う。

答 アンケートや審議会・委員会の意見を踏まえ、実現目標の時期等具

体的に明記し策定する。工業団地に伴う雇用拡大による新規定住潜在者の定住誘導、町内在住者の流出抑制、出生率の引き上げにより実現に向け取り組む。住宅確保に向け、既存住宅団地の空き区画活用・空き家活用・地区計画等、実現までの期間や可能性により優先順位をつけ早期に取り組む。

問 産業振興によるまちの活性化は

答 総生産の増大により活性がある

問 農業振興のための、

- ① 農業者の確保育成
- ② 農畜産物のブランド化
- ③ 販路拡大

の現状は。農業・観光と大型商業施設、道の駅、滋賀電工工業団地等の今ある資源を生かした取り組みについて伺う。

- 要素があり、そのために、
- 1. 生産高を増やすこと
- 2. 六次化により付加価値を高めること
- 3. 2つの道の駅を活用すること
- 4. 来町者による町内産品の消費拡大
- 5. 来町者へのおもてなしの心を育むこと
- 6. 工業団地など早期に生産に結びつけること
- 7. 「土産土法」の具体的な推進に努める。

答

① J.A等関係機関との協力体制により農業者の育成支援を継続していく。

② 株みらいパーク竜王で農産物のブランド化の取り組みを進めている。

③ 町内の直売所への出荷はもろろん、観光協会とも連携して推進している。

また、町内総生産が増大するところに活性化の



竜王産の野菜・果物の魅力を伝える野菜ソムリエ(かがみの里)

問 橋梁の長寿命化工事は 何年かかるのか

答 概ね25年後の予定



古株 克彦 議員

橋梁長寿命化工事って？

老朽化しつつある橋梁について、「悪くなってから対策を行う」といった管理方法でなく、「傷みが大きくなる前から計画的に対策を行う」といった予防的対策工事です。これにより橋梁を将来にわたり長く使い続けることができ、維持管理にかかるコスト削減も図れます。竜王町では81橋と2メートル以上のボックスカルバートを含めた117橋が長寿命化工事の対象となっています。



近江うし丸



長寿命化工事中の祖父川橋

問 橋梁修繕工事の実績のある業者が少なく、ため応札業者がなく入札が不調になることもあるそうだが、地元

答 修繕後の橋の寿命は新たに50年以上延命ができるといわれている。また、81橋の長寿命化工事の終了は概ね25年後を予定している。

問 橋梁長寿命化工事の修繕後の橋の寿命は何年延びるのか。又81橋の工事の見通しは。

橋梁修繕工事の完成を見通して発注するといった形態をとっている。橋梁工事は全国的にますます増えていく傾向にあることから、技術の習得について地元業者にもお願いしていきたい。

答 橋梁の修繕工事は、特殊工種が集合したもので現場管理者および作業者の経験値が必要となる。現場管理経験者が少ないため、発注の時期、国県等の橋梁修繕工事の完成を見通して発注するといった形態をとっている。

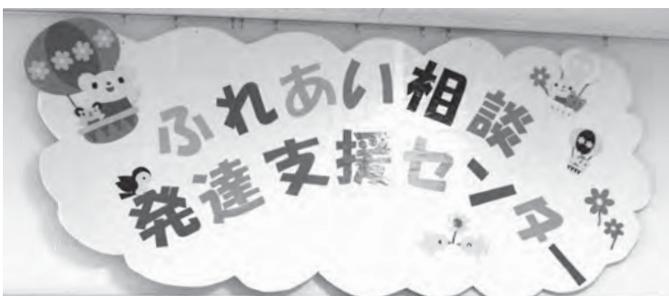
業者の育成についてはどう考えているのか。

問 竜王町のめざす 特別支援教育のあり方は

答 教育的支援の整備を進める



岡山 富男 議員



問 「障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学び合うことにより、地域で共に生きていくための力を育てる」ため、町としてはどのような対応をされているのか。また、学校を卒業してからの就労支援はどのような考えを持っているのか。

答 町では、「みんなが安心して暮らせるまちづくり」を基本理念に掲げ、発達障がいを含めて障がいがある方に対して、早期から適切かつ一貫した支援を行っている。特別な教育的支援を必要とする幼児、児童生徒への支援体制について、竜王町特別支援教育推進協議会を設置して、関係機関と一体となり緊密に連携し合っており、ニーズに応じた適切な教育的支援や体制の整備を進めている。また、就労支援については、東近江圏域地域生活支援センターや働き暮らし応援センターと連携しながら、一人ひとりの状況から踏まえながら支援をしていく。



内山 英作 議員

問 日野川堤防の補強と排水対策は

答 引き続き、河川管理者へ要望していく

答 東近江圏域の河川整備計画によって、堤防の浸食等で洪水時に人的被害が予測される箇所についても、随時対策が図られ、堤防は、現状よりも強固なものになると考えている。

問 日野川堤防も年々、老朽化が進む中で台風や局地的な豪雨が重なる、いつ堤防が決壊するか、雨のシーズンになると安心して生活ができない。そこで、町内の今後の日野川堤防の補強対策について伺う。

弓削地先
日野川堤防と隣接する家屋堤防が家屋の2階部分と同じ高さ)



答 新しい事業は、要介護認定の要支援1・2の方が利用されている訪問介護、通所介護について、給付という枠組みから事業という枠組みに移行され

答 まずは、要支援者へ要介護状態に陥らないために健康に留意し、生きがいのある生活を送ることの大切さを伝え、その維持のための手法の推進に向けて今後も地域に向けて啓発していく。

問 要支援から自立への取り組み、「介護卒業」への町での取り組みについて伺う。
また、平成28年4月から実施予定の介護予防・日常生活支援総合事業について伺う。

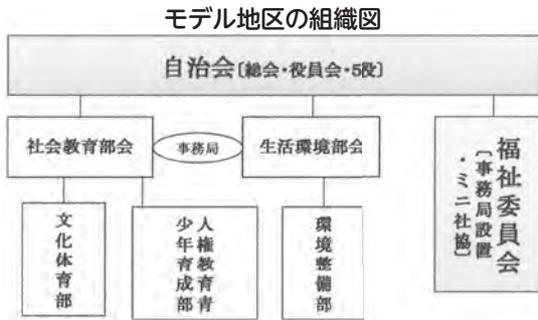
答 事業内容について更に検討、整備していく

問 要支援から自立へ介護卒業をめざして

問 福祉組織と自治会組織の連携は

答 各地区への情報提供に努める

る。これにより、地域における多様な主体による多様なサービスの展開を考えている。



答 現在、福祉委員会と自治会の連携を高めるための仕組みを時間をかけて築き上げているモデル的な地区もある。研修会や地区との話し合いなどの中で、各地区に参考となるような情報提供や地域の福祉活動の意義について伝えていく。

問 自治会組織と福祉組織が連携した自治会活動の推進を啓発、呼びかけていく考えはあるか伺う。

野菜を1日350g以上食べましょう



答 禁煙や受動喫煙の防止、減塩や野菜摂取の促進などの食生活習慣の改善、運動の定着、検診の受診率向上に向けた取り組みを進めている。

問 竜王町の健康状況は、主要死因別死亡数はがんが1位で、毎年30人近くの方が亡くなっている。がん予防対策について伺う。

答 運動の定着、食育の推進

問 竜王町の健康施策は

問 第五次総合計画

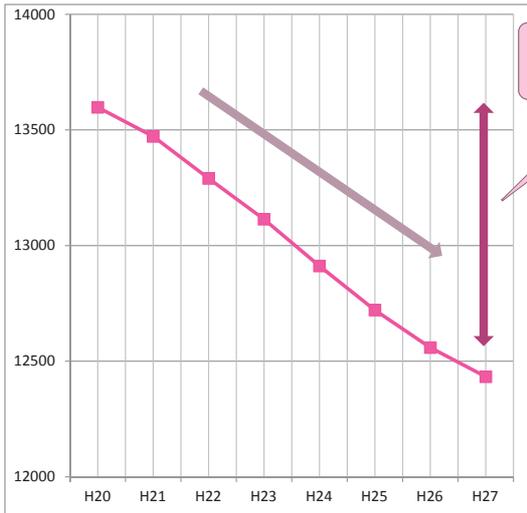
後期基本計画は

答 役場内の体制整備及び町有地等の活用を強く進めていく



菱田 三男 議員

竜王町の人口推移



どうするの？
あと5年で、14000人

平成20年から27年の7年間に1年平均167人の減少(7年間で8.6%減)

答 滋賀竜王工業団地をはじめとした新規雇用者への定住誘導に関しては

1,800人を想定している。また町内企業の定住潜在者への定住誘導300人については定住の可能性がある人数として見込んでおり、これらの方々を受け入れるには住宅地や住宅整備を欠くことはできない。地方創生を追い風としてできることから、着実に実現に移していく。

問 今日まで住宅施策は依然として進んでいない。2020年に人口14,000人をめざすと言われるが、あと5年しかない。具体的な見通しと施策を伺いたい。

問 中学校の部活動は

答 地域の指導者と教員が連携して生徒の希望を実現していく



森島 芳男 議員



女子ソフトボール部

このような中、地域の指導者の協力を得て全ての教員がいずれかの部活動の顧問に就き、不足

答 自主的な参加により行われる部活動は、生徒にとって学校生活上欠かすことのできないものであるが、生徒数の減少に伴い教員数も減少し、やむなく休部や廃部となった部もある。

問 部活動は、授業とともに教育の観点からも、学校生活上欠くことのできないものであると思われるが、スポーツ少年団で頑張った子供たちが継続して行えない現在の状況を伺う。

数は町雇用の嘱託講師を依頼している。今後さらに生徒が減少し、また多様な競技種目を求める中で、地域の指導者と教員が連携して生徒の希望を実現していくことが必要と考える。

そういう意味では、バレーボールや野球のように地域クラブと連携しながら活動を進めていく方法も必要ではないかと考える。

竜王中学校の部活動開設状況

陸上部 (男女合同)	卓球部 (男女合同)	美術部
サッカー部 (男女合同)	バドミントン部 (男女合同)	パソコン部
女子ソフトボール部	男子バスケットボール部	
男子ソフトテニス部	女子バスケットボール部	
女子ソフトテニス部	吹奏楽部	

楽しもう！第二の人生！！

大学を出てからの35年間、小学校の教師として勤めてきましたが、定年の3年前に退職して以来、第二の人生を歩んでいます。

それまでの35年間は仕事一筋。朝から夜まで、家へ帰ってからも仕事をする事があたり前の日々でした。子ども達や仕事に対する責任、提出期限に追われる日々から解放されることで肩の荷が下り、自由を満喫しています。

それまでは出来なかった習い事等にチャレンジ。チア、フラ、オカリナ、お茶、お花、習字、着付け、園芸、切り絵、折り紙、花結び、仏教讃歌等々。また、赤十字奉仕団、更生保護女性会、体振協、郡体協、県体協、事業団、人推協の役員や行政相談委員等の役も引き受け毎日忙しくしています。でも、私の第二の人生のメインは寺の法務。定年前に退職したのも、実家の寺を継ぐためでした。得度を受け僧侶の資格をとり、今では(代務)住職として葬儀や法事、寺の行事等の法務をメインとして過ごしています。

いろいろな趣味と役職。そして法務。私の第二の人生はおおいそがしです。それでも「一度きりしかない人生なら楽しまなくっちゃ」という思いで、少々忙しくても自分の好きな事をやっているのだから苦にならず、今できる事に感謝し、毎日を有意義に過ごしています。

これからも、人やものに対する感謝の心を忘れず、何事にもプラス思考で取り組んでいきたいと思っています。



編集後記

地球温暖化の影響は、昨年も世界各地に未曾有の大災害をもたらしました。今年も異常とも言える暖かな新年を迎え、もはや異常気象が当たり前のように感じてしまう今だからこそ、私たち一人ひとりが環境問題について、真面目から真剣に向き合わなければならぬと思います。

私たち第十六期議員は、何事にも真正面から向き合う集団として、十二月定例会で時間を延長し、一般質問を行い、竜王町に山積する諸問題、特に人口減少問題について真剣な議論を交わしました。

これからの四年間、第五次竜王町総合計画の後期を見据え、全町民の代表として重要な課題に取り組んで参りますので、皆様の格別なるご支援・ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

議会広報特別委員会

委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
富男	山田	松浦	内山	森島	森山
	義明	博	英作	芳男	敏夫

